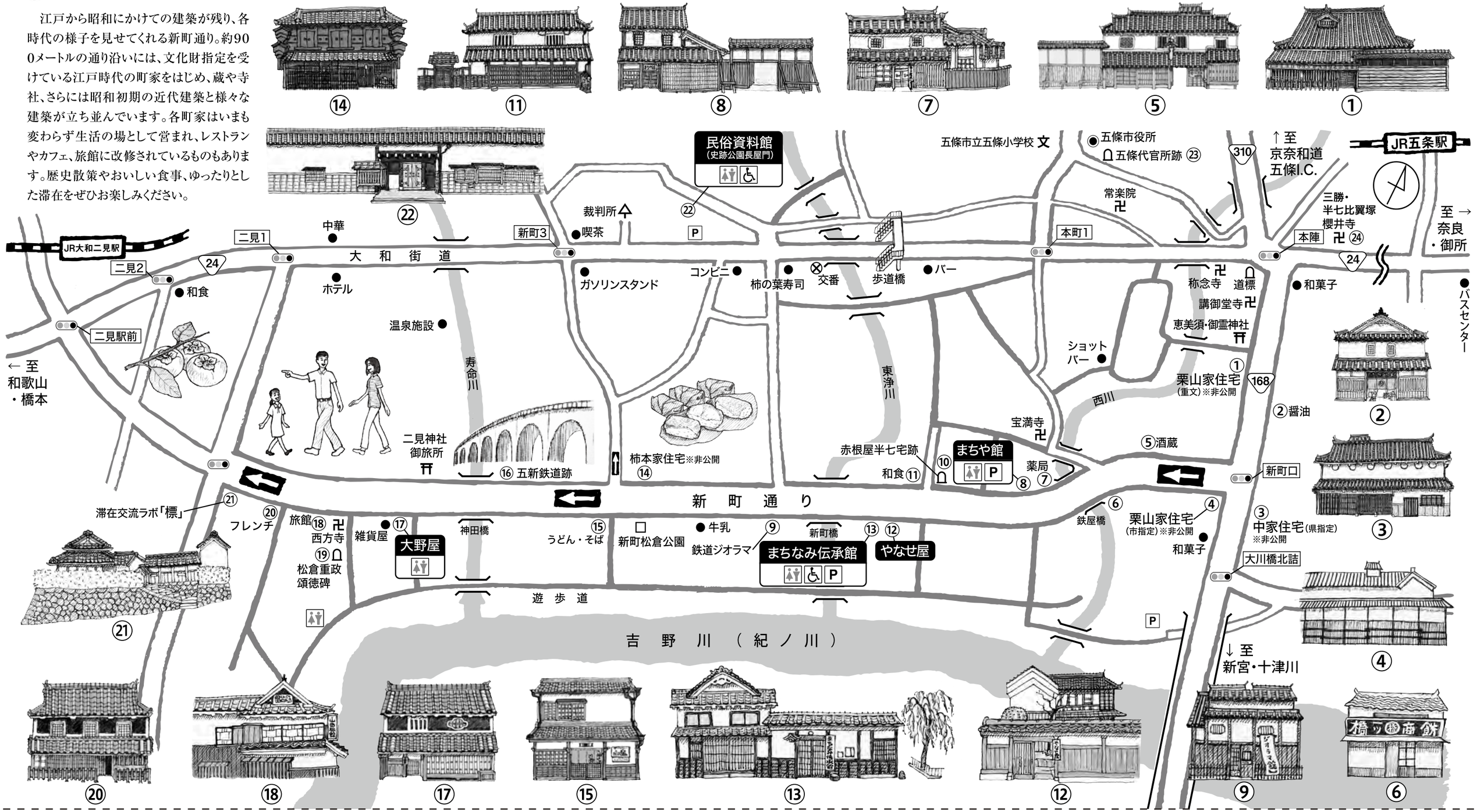
奈良県
五條市

五條新町ガイドマップ

◇JR五条駅 ▶ 新町口 約800m（徒歩13分）　◇新町口 ▶ まちなみ伝承館 約300m（徒歩5分）　◇まちなみ伝承館 ▶ 二見駅前 約900m（徒歩15分）

江戸から昭和にかけての建築が残り、各時代の様子を見せてくれる新町通り。約900メートルの通り沿いには、文化財指定を受けている江戸時代の町家をはじめ、蔵や寺社、さらには昭和初期の近代建築と様々な建築が立ち並んでいます。各町家はいまも変わらず生活の場として営まれ、レストランやカフェ、旅館に改修されているものもあります。歴史散策やおいしい食事、ゆったりとした滞在をぜひお楽しみください。



⑰大野屋

TEL：(0747)22-4001(内線210)

開館 ▷ 9:00−17:00
食堂ブース　11:00〜15:30
カフェブース　9:30〜16:30

休館 ▷ 月曜日と年末年始
（月曜日が祝日の場合は翌平日）

㉒民俗資料館（史跡公園長屋門）

TEL：(0747)22-0450

開館 ▷ 10:00−16:00

休館 ▷ 月曜日と年末年始
（月曜日が祝日の場合は翌平日）

入館料 ▷ 無料

⑬まちなみ伝承館

TEL：(0747)26-1330

開館 ▷ 9:00−16:30（入館は16:00まで）

休館 ▷ 水曜日、祝日の翌日と年末年始
（水曜日が祝日の場合は翌平日）

入館料 ▷ 無料

⑫ 旅宿 やなせ屋

TEL：(0747)25-5800

※ご予約・料金は上記に記載の電話番号にお問い合わせください。

⑧まちや館

TEL：(0747)23-2203

開館 ▷ 10:00−16:00（4/1〜10/31までは17:00閉館）

休館 ▷ 月曜日と年末年始
（月曜日が祝日の場合は翌平日）

入館料 ▷ 無料

大和五條 新町通り

400年の歳月に磨かれた町並み

重要伝統的建造物群保存地区に選定されている五條新町地区は、中世に成立した町場を起源とする五條と江戸時代初めに整備された二見城の城下町に由来する新町の、2つの地区からなります。江戸時代を通じ紀州（伊勢）街道沿いの商家町として栄えたこの2地区には、江戸時代初期から昭和初期まで約4世紀にわたる町家や洋風建築などの多様な建物が軒を連ね、時代の移り変わりを体感できる町並みとなっています。

日本最古の民家　栗山家住宅（重要文化財）

重要文化財に指定されている栗山家住宅は、慶長 12 年（1607）の棟札を持ち、建築年代が分かる民家では日本最古のものです。この住宅は、当時の有力商人の家らしく大きく立派な構えを持ち、入母屋造り・本瓦葺の反りの強い屋根は、五條新町地区の中でも特に目を引く建物です。

●栗山家住宅（重文）
→**マップ①**

防火仕様の町家　中家住宅（奈良県指定文化財）

元禄 16 年（1703）に五條村の町家の多くを焼失する大火が起こりました。中家住宅は、この大火の翌年の宝永元年（1704）に建てられた町家です。そのため、通り側の二階壁面には窓を設けず外部から火を侵入させない防火対策が厳重に施されています。中家は江戸時代に五條村の庄屋や代官所の掛屋を務めた家で、主屋の裏手には庄屋の家として別座敷（客室）が設けられています。

●中家住宅（県文）
→**マップ③**

めずらしい単層の町家　栗山家住宅（五條市指定文化財）

元禄9年（1696）に建てられ、重要文化財・栗山家住宅とともに元禄の大火を乗り越えた数少ない町家です。二階建ての町家が並ぶ五條新町地区の中ではめずらしく、外観を単層（平屋）に見せる構造で前面に庇がないのが特徴となっています。

●栗山家住宅（市文）
→**マップ④**

町をつくった殿様　松倉重政と新町開設

慶長 13 年（1608）、松倉豊後守重政は関ヶ原の戦いの功績によって、1万石余りの大名として二見城に入りました。そして二見城とすでに町場として栄えていた五條村とを結ぶ地域に、吉野川と並行する道路に沿った町割を施行して新町をつくり、商人を集まりやすくするために諸役（雑税）を免除しました。重政はその8年後に肥前国（現在の長崎県）日野江城へ国替えとなりますが、五條が南和地域の中心として発展する基礎を築きました。地域の人々は、国替え後も「豊後様」と重政をあがめて祭りをおこなっていたことが記録に残されています。また、西方寺の本堂には重政の位牌が祀られ、境内には頌徳碑が建立されています。

●松倉重政頌徳碑→**マップ⑲**

江戸両国花火の祖　鍵屋弥兵衛

花火大会でおなじみの「かぎやー、たまやー」のかけ声は、江戸で活躍したそれぞれの花火師の屋号です。その「鍵屋」の初代弥兵衛は、大和国篠原村（現在の五條市大塔町篠原）の出身で、新町村で火薬製造の技術を学び、万治2年（1659）に江戸へ出て「鍵屋」を開いたと伝えられています。

大野屋では、「鍵屋」を継承する宗家花火鍵屋 15 代目の写真や花火資料が展示されています。

●大野屋→**マップ⑰**

吉田茂内閣を支えた人物　木村篤太郎

五條出身の木村篤太郎（1886 ～ 1982）は東京帝国大学卒業後、弁護士として活躍し、終戦後には検事総長、吉田茂内閣では、司法大臣、法務大臣、保安庁長官（のちの防衛庁長官）を歴任しました。

また、戦後、連合国軍総司令部（GHQ）によって禁止された剣道の復興に力を尽し、禁止の解除後に結成された全日本剣道連盟の初代会長も務めました。木村篤太郎の生家は、まちや館として改修され公開されています。また篤太郎の二畳一間の勉強部屋も残され、関係資料が展示されています。

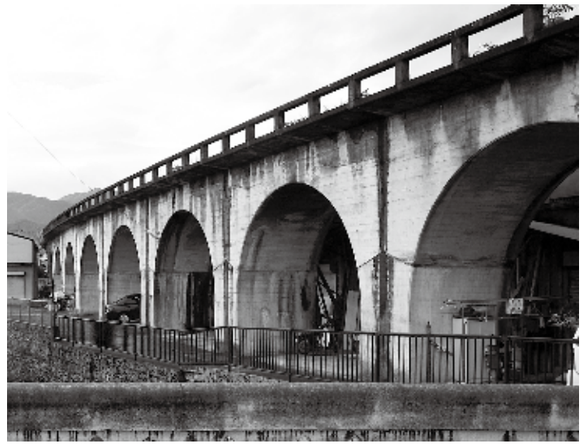
●木村篤太郎宅跡（まちや館）→**マップ⑧**

幻の五新鉄道　カンヌで絶賛された映画の舞台

五新鉄道は、五條から紀伊半島を縦貫し和歌山県新宮までを結ぶ壮大な計画でした。建設の要望は明治時代終わりからあり、大正 12 年（1923）には五條～阪本（大塔町）間の建設が国の計画に決まりました。しかし、着工は昭和 14 年（1939）までずれ込んだ上に工事は中断をくり返し、昭和 40 年（1965）、ようやく路盤が完成していた五條～城戸間（西吉野町）で暫定的に路線バスが運行されることになりました。そして阪本までの路盤工事は完成目前でしたが、昭和 56 年（1981）の国鉄再建問題で事業が凍結されました。その後も路線バスの運行は継続されていましたが、平成 26 年（2014）9月にバスも廃止されました。

平成9年（1997）のカンヌ国際映画祭でカメラドール（新人監督賞）を受賞した河瀬直美監督の「萌の朱雀」は、五新鉄道と西吉野村（当時）の雄大な自然を物語の舞台にしています。

●五新鉄道跡→**マップ⑯**



まちなみ伝承館

明治から大正にかけて建築され、以前は医院に使用されていた町家です。平成15年（2003）に改修され、土間ギャラリー、多目的用途の和室、手工芸や絵画などの展示や趣味教室に利用できる展示室、トイレ、駐車場が整備されています。周辺施設のパンフレットを取り揃え、まちなみ案内人による地区の紹介もしていますので、五條新町の散策の拠点としてご利用ください。

●まちなみ伝承館→**マップ⑬**

赤根屋半七

元禄8年（1695）、大坂千日寺の墓地で心中を遂げた大和五條の木綿商人・赤根屋半七と女舞の三勝。赤根屋半七は新町に住んでいたといわれています。この心中事件は、世間に大きな衝撃を与え、翌年には事件を題材にした歌舞伎が上演され、その後、心中物の作品が多くつくられるきっかけとなりました。

また、この事件は有名な人形浄瑠璃の演目「艶容女舞衣」の題材になり、今なお国立文楽劇場をはじめ各所で上演される人気の演目となっています。

●赤根屋半七宅跡→**マップ⑩**
●三勝・半七比翼塚（櫻井寺）→**マップ㉔**

歴史トピックス

明治維新のさきがけ　天誅組

文久3年（1863）、尊王攘夷派の公家たちは攘夷祈願のための孝明天皇の大和行幸を計画し、それに乗じて倒幕の兵を挙げようと企てました。そして8月 13 日に大和行幸の詔が発せられると、8月 17 日には尊王攘夷派の志士たちで結成された天誅組が、倒幕軍の先鋒になるために五條代官所を襲撃しました。代官の鈴木源内をはじめとする役人を殺害して代官所を焼き払い、櫻井寺を本陣としました。しかし、翌 18 日、朝廷内部のクーデターによって尊王攘夷派の公家が失脚したために大和行幸も中止となり、天誅組は反乱軍として追われる立場になります。その後、吉野各地で転戦し抵抗を続けましたが、9月 24 日に吉野郡小川郷鷲家口（現在の東吉野村小川）でほとんど全滅しました。幕末の政局に翻弄された天誅組の行動は失敗に終わりましたが、その後の倒幕運動につらなり、明治維新のさきがけになったとされています。

五條代官所跡（現五條市役所）

寛政7年（1795）、現在の五條市役所の場所に五條代官所が設置されました。この代官所は、大和国東部・南部の幕府領を支配しており、倒幕の象徴として天誅組に襲撃され焼き討ちにあいました。庁舎前には「五條代官所跡」の石碑が建てられています。

●五條代官所跡→**マップ㉓**

史跡公園

天誅組の変の翌年に再建された代官所があった場所です。現在はその長屋門が残り、天誅組を紹介する民俗資料館として活用されています。また公園内には、かつて和歌山線を走っていた蒸気機関車が展示されています。

●民俗資料館（史跡公園）→**マップ㉒**